

「戦争と平和！」

第25回

古稀を迎えて、戦争の意は何たるかを考える

仲山 富夫

私は戦後生まれである。1945年太平洋戦争終結時、日本は7,200万人の人口であった。私の生まれた1950年は8,300万人(アメリカの統治下にあった沖縄は含まず)であった。

母は10人兄弟の長子である、二人の弟が戦場に赴き二番目の弟が戦死した。長男が戦場から生還した。母は町内で小っちゃな印刷業を営む夫に嫁いたが、夫は戦死した。印字の鉛は強制的に供出させられた。生業は国家のために廃業となった。子三人連れて実家に戻った。夫を戦地に失くした母の妹も子供を連れて実家に戻ってきた。子のために生きるために、水飲み百姓の実家に戻った。

◆ 戦争を語らない親たち

私が小学校の三年生頃と思う。初めて東京へ遠足(バス旅行)時、車掌が説明してくれた『お化け煙突』が記憶にあるが、4号線から都内に入った時、左右に並ぶ二階建ての家屋に、網の目の電線が覆いかぶさるように垂れ下がっていたことが忘れられない。東京の人はこんなところにひしめて住んでいるのか。

上野公園に到着した時、白衣姿の沢山の傷痍軍人がアコーデオンを奏でながら歌っていた、その異様な光景に驚きと恐ろしさを感じた。

ある時、いつも優しい本家の叔父が、私達に笑顔を見せずに、よもぎ色の出征時に支給されたと思う大きめのオーバーを着て、往還を降りて行った恐ろしい顔つきが忘れられない。

日露戦争へ出征したという親戚の大きな体の叔父さんは、いつもどてらを着て炬燵に座っていた。子供ながらに怖かった。道路を徘徊するその叔父を背中に背負って家に連れ戻す大人の男性は戦災孤児でもらい子なのだと知った。小学校3年生の私は親たちに問うたことがあった「戦争とは大変な事だったの」、親たちは、「忘れたなあ」母親は「おじちゃん(母の弟)は、帰ってきたとき、人が変わったようだったな」「おかあさんの家(嫁いだ先)の近くに焼夷弾が何度も落ちてきて那珂川まで逃げていったら川は真っ赤に燃えていた」と、空を仰ぎながら言ったことがあった

親たちは戦争を語らない。生きることが、食べることが精いっぱいだったのだろう。

私が小学4年生になったころか、まだ、テレビがなかったため本家で見るのが楽しみであった。夕食後、みんなが集まって映りの悪い画面を食い入るように見つめるのであった。

ある夜、『人間の条件(五味川純平原作)』が、映りはじめた時、叔父は急に立ち上がり、怖い顔をして「テレビ消して、もう寝ろ!」と声を荒げた。その後、叔父はこのドラマを見ることはなかった。私たちは音量を下げた見ている。

昭和24年、母は親の言う通りに再婚した。そして私は生まれた。

◆ 戦争による国別犠牲者数(ネットより抜粋)

◇日清戦争：1894.7～1895.3の死者

日本	清
1万 3800人	3万 5000人

◇日露戦争：1904.2～1905.9の死者

日本	ロシア帝国
11万 5600人	4万 2600人

\*司馬遼太郎は乃木大将の戦略を批判(追記仲山)

◇第一次世界大戦：1914.7～1918.11の死者

日本	300人	動員兵力 80万人
ドイツ	177万 4000人	
ロシア	170万人	
フランス	135万 8000人	
イギリス	90万 8000人	
イタリア	65万人	
ルーマニア	33万 6000人	
アメリカ	11万 7000人	

調査16か国(852万9000人)

◇第二次世界大戦：1939.9～1945.9の死者

	死者数	市民の死者数	計
日本	230万人	80万人	310万人
ソ連	1360万人	700万人	2060万人
ドイツ	422万人	267万人	689万人
中国	350万人	971万人	1321万人
ポーランド	12万人	591万人※1	603万人
ベトナム	200万人※2		
インドネシア	400万人		
インド	150万人		
フィリピン	111万人		
アメリカ	29万人		

※1 内ユダヤ系市民270万人

※2 ホーチミンの主張では1944年末から1945年にかけてベトナム北部で200万人が餓死

調査23か国(兵士死者数 合計6478万人)

市民の死者数に驚いています(仲山)

\*第二次世界大戦後、いまだに世界のあらゆるところで紛争が続いている。

紙面がなくなりました。機会があれば、平和について書いてみたいが、平和な世界が一度たりともあつたのだろうか。私は知らない。